

# 平成 26 年度 坂小学校区 第 2 回きずなづくりトークまとめ ～仮称：地域コミュニティ連絡会～

10月23日(木)に開催された「坂小学校区第2回きずなづくりトーク～仮称：地域コミュニティ連絡会」にご出席いただきまして、誠にありがとうございました。まとめができましたので、送付いたします。  
(市のホームページにも掲載)

問合せ 地域安全課 きずなづくり推進室 (電話 9 8 3 - 2 7 0 8)



ご参加ありがとうございました。

## 【当日参加団体一覧】

団体名		
市山新田自治会	消防団第 1 4 分団	坂小学校支援地域本部
笹原自治会	坂幼稚園	錦田地区地域包括支援センター
山中町内会	坂幼稚園 PTA	市山子ども会
箱根坂自治会	坂小学校	坂少年ソフトボールクラブ
体育振興会	錦田中学校	
民生委員・児童委員	錦田中学校 PTA	

※当日参加者 24 名



会場アンケート：「テーマ別会議」「協議会設立」について、  
参加者の意向を伺いました。

## 【会場アンケート結果】

テーマ別会議
①「広範囲」「医療品・病院がない」「寒さ」などの地域特性を考慮した 具体的な災害対策を考えよう！・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7人
②中学生が日常的に防災を学べる機会を考えよう！・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1人
③災害時の行動について、家庭内で話し合えるような大人の学びの機会を作りたい！・・5人
④親世代に向けた坂地区の魅力づくりや魅力アピール方法について考えよう！・・・・・・10人
⑤その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・0人

※テーマ①&③と④の2グループに分かれ話し合いました。(別紙「テーマ別会議まとめ」参照)

協議会設立の意向
①議会に向けた取組みを進めたい・・・・・・・・・・1人
②連絡会を継続したい・・・・・・・・・・・・・・・・・・22人
③その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・0人

テーマ①「地域特性を考慮した具体的な災害対策を考えよう！」&③「大人の学びの機会を作りたい！」（テーマ①&③班：参加人数 14 人）

●坂地区の具体的な災害対策に向けて、皆さんの意見を出し合いました。

突発的な災害への対応が必要…

いろいろな想定が考えられる。

・災害発生時、防災役員がいない場合がある。

・**個人・家族でできる事、できない事がある。**

⇒個人差があり複雑。

⇒まずは大人が防災を学び、家庭で防災の話をできるようにする。

⇒個人でできない事を地域（組織）が行う。

・**地域・組織でできる事・できない事がある。**

⇒地域もどこまでできるのか心配。

地域の特性としては「**孤立化**」する。

⇒最低限一週間で…どのように乗り切るか。何を備えるか。

⇒自分の身は自分で守る。

皆の中で『**個人・家族でできる事、できない事**』と『**地域・組織でできる事、できない事**』が整理されれば、具体的な対策が分かり、地域でやるべき事&目指すべき災害対策の姿がわかってくる!!



アクション

「**自分の身は自分で守る!**」

その為に「**個人・家族でできる事**」は？

★**家の中の整理整頓**

・家のどこに何がどれくらいあるのか確認しておく。

★**家族内の避難場所を決める**

・自分が何をすべきか行動シミュレーションが必要。  
・非常時はあわてていて、何をしたらいいかわからなくなる。各家庭にあった避難対策をつくる。

★**家族の連絡方法の確認**

・安否確認方法を徹底する。

★**備蓄品チェック**

・各家庭に災害時に必要な物は準備できているか、  
問い合わせ確認（準備を確実にする為にチェックシート）  
・一週間の備蓄品は必ず用意。

「**地域・組織でできる事**」は？

★**普段から団体と関わりを持つ**

・地区の連絡網はあるが、緊急時それが実際に通用するのか確認をする。

・**地域包括支援センター**

（サロン開催、出前講座/早期要支援者の発見  
⇒要支援者情報を出してほしい）

組織が  
バックアップ

■「**大人が学ぶ機会**」何を学ぶべきか？

・ケガや寒さ対策など必要な知識を身につけてもらう（毛布がガウンになるなど）。専門家の話を聞く機会を設けてほしい。

・災害時の行動についての知識。地震の時、家の中だったらこういう所が安全など…。各家庭によって違うので、家庭内での話し合いも大切。

・各家にあった避難行動を事前に勉強してほしい。

・研修会を行う。地域リーダーを作る。

・災害伝言ダイヤル 171

・一週間頑張る方法

・土砂災害警戒区域の人は各家庭で迅速に対応できるように勉強し、家族と話し合ってもらいたい。消防団がすぐに対応できるとは限らない。

■**防災について考えてもらう為に、個人にどのように働きかけるか？**

★**消防団の定例の「火の用心」パトロール**の声を聞くと、防災の事を思い出してもらえるような工夫をする。「火の用心」のバリエーションを増やすなど。

★『**自分の身は自分で守る**』ための行動チェックシートを作って、周知する。

⇒三島市のマニュアル・チェックリストはあるが徹底されていない。これを参考に地域にあった内容を確認し、坂地域独自のチェックシートを作る。

★自治会報等の回覧で、家庭で話し合った事を回収して、地域の防災に役立たせる。防災訓練等で再確認してもらう。

★台風などの災害発生後の危機意識の高い時に広報すると、皆考えてくれるので効果的。

アクション



テーマ④「親世代に向けた坂地区の魅力づくりや魅力アピール方法について考えよう！」

(テーマ④班：参加人数 10名)

●坂地区や幼稚園・小学校の魅力やそのアピール方法について皆で話し合いました。

子どもは、最初の友だち作りが重要！⇒まず、幼稚園に呼び込む！！

★坂地区の魅力はどんなこと？

きずなが強い・人が良い

- ・小規模な地域で人と人とのきずなが強い
- ・小さい頃からの知り合いが多い
- ・互いに誰でも顔見知り
- ・みんな知り合い（助けてくれる）
- ・住民の連携が強い
- ・近所づきあいがしやすい
- ・どこの子どもかわかる（声を掛けることができる）
- ・地域の人々が皆仲がいい
- ・隣近所の関係が良い
- ・ご近所もアットホーム
- ・地域の方の声かけ、見守りがある
- ・地域の人があたたかい

自然環境が良い

- ・自然環境に恵まれている
- ・豊かな自然
- ・空気がおいしい
- ・最高な空気・風景（富士山）
- ・遊歩道！
- ・富士山や駿河湾等の眺めが良い
- ・箱根・伊豆に近い
- ・山中城址がある
- ・自然がいっぱいで、自然と共に子どもが過ごしている
- ・生き物体験

自然環境が人を育てる

坂幼稚園

- ・小人数⇒子ども1人1人の意見が反映しやすい
- ・やろうと思えば何でもできる
- ・小学校に協力的

坂小学校

- ・坂小は色々な体験ができ、とても良いところ
- ・放課後児童クラブ⇒幼稚園児～6年生まで（7:30～18:00）値段も安い！

坂小が連携の中心

スポーツ

《坂ソフトボール》

- ・35年前父兄と活動開始
- ・とてもいい指導を実施
- ・心を育てる
- ・仲間づくり

イベント

- ・夏の花火、大文字焼き（来年ラスト）

野菜がおいしい

- ・箱根西麓野菜
- ・たくさんの野菜を食べられる
- ・野菜がおいしい
- ・栽培の様子が見られる

- ★坂幼稚園の困りごと
- ・園児数の減少
  - ・2年保育がネック（途中から転園は難しい）
  - ・3年保育は難しい状況

親世代を坂地区に呼ぶ為にまず幼稚園からPRしよう

■幼稚園をPR

- ・子育て支援事業を活用
- ・坂幼稚園 DE 遊ぼう会（0歳からのお誘い）⇒小さい時から幼稚園へ遊びに来てもらう
- ・坂幼稚園体験ツアーを保育園児に勧める
- ・体験入園・体験入学
- ・小学校預かり保育をもっとPR
- ・坂小・坂幼稚園をセットで



■アピール方法(情報発信)

- ・地域の人に回覧板で
- ・市内全域に情報発信していく
- ・イベントの報道依頼
- ・マスコミを活用
- ・アピールの機会を多く持つ
- ・口コミ



遊歩道のCM  
児童クラブのCMなど

■おいしい野菜を活用

- ・貸し農園（親切な指導付き）
- ・野菜収穫体験
- ・いも掘りなど農業体験
- ・「安い」もキーワード



■自然を活かした体験イベント

- ・夏休み、坂自然体験塾を行なう
- ・田舎の学校へ行こう体験
- ・長期のサマーキャンプ
- ・空き家・公民館などを利用し長期の住民体験！！
- ・子どもの森などで遠足・キャンプ
- ・「子どもに良い環境」を強くPR



地元だと当たり前で良さがわからない  
他所からの視点も大事

坂地区は団結力がある。  
皆で地区の魅力のアピールしていこう！

